

問題

ロフトでねじれたモデルが作成されます。

対象製品

V-nasClair シリーズ 全般

回答

ロフトでは2つ以上の断面形状（ポリライン要素）を利用しますが、ポリラインで作成された断面の始終点の位置関係およびポリラインの作図方向が同一ではないと正しくモデリングすることができません。編集方法についても2パターン紹介します。

操作手順

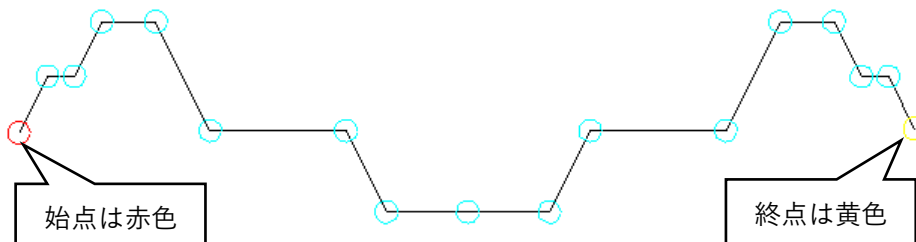
始終点の確認方法

対象コマンド：

- [標準]：[ツール] タブー [基点表示] カテゴリー [基点表示-選択/解除] コマンド
- [クラシック]：『ツールー基点表示ー選択/解除』コマンド
- [アドバンス]：[2D ホーム] タブー [ツール] カテゴリー [基点表示] コマンド

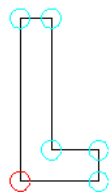
基点表示コマンドを実行後、対象のポリライン（断面形状）を選択します。

本コマンドにて図形の構成点を分かりやすくします。（始点：赤、終点：黄、通過点：水）

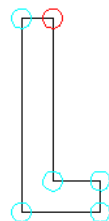


※閉じたポリライン要素を選択した場合、始点終点は同位置のため赤色黄色のいずれかの色のみ表示されます。（断面図形①②では始終点が同一であり、今回は赤のみ表示されています。）

断面図形①



断面図形②



方法1 断面ポリラインの始点や作図方向揃える

対象コマンド：

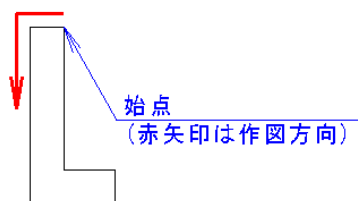
[標準]：[編集] タブー [変更] カテゴリー [向き反転] コマンド

[クラシック]：『編集-向き反転』コマンド

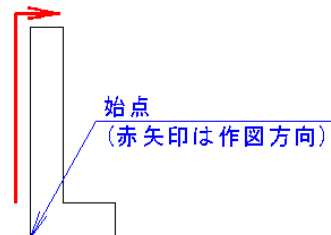
[アドバンス]：[2D ホーム] タブー [編集] カテゴリー [向き反転] コマンド

1. 閉じたポリライン要素の場合、切断コマンドおよび連続要素連結コマンド等で始点を揃えます。ポリライン要素の始終点の作図方向が異なる場合は、向き反転コマンドで各断面の始終点の向きが同一方向になるようにします。

断面図形①

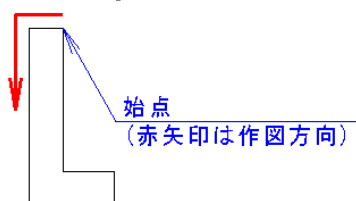


断面図形②

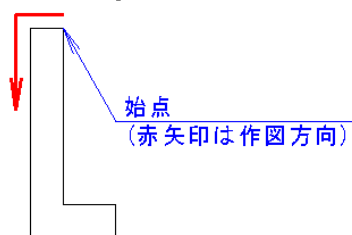


2. いずれかの向き反転コマンド実行後、断面ポリラインを指定します。

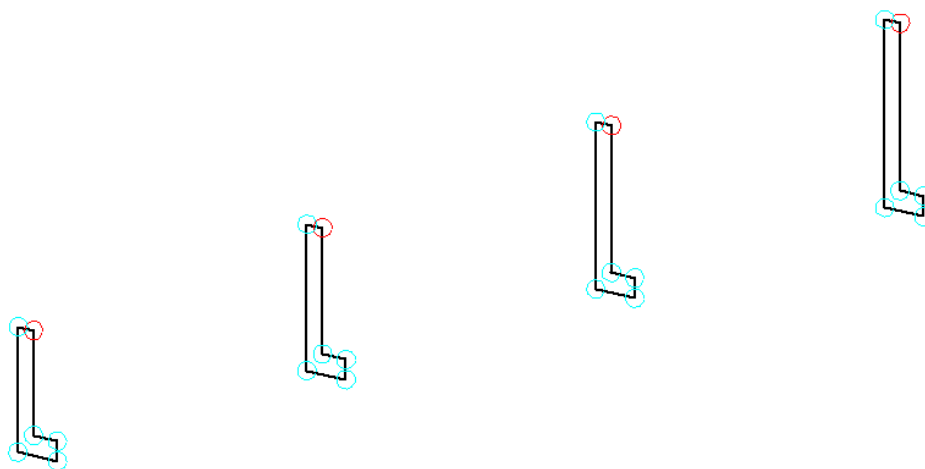
断面図形①



断面図形②



3. 3D 断面（始点位置と作図方向が同じ状態）を配置しロフトコマンドを利用します。



方法2 ロフト(導線)コマンドで対応

対象コマンド：

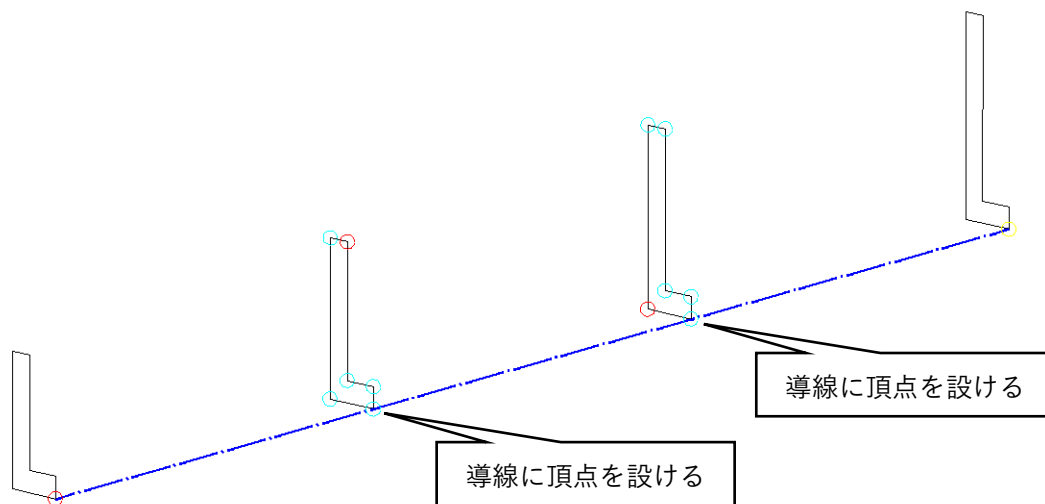
[標準]：[3D] タブー [面作成] カテゴリー-[ロフト(導線)]コマンド

[クラシック]：『3D-面作成-ロフト(導線)』コマンド

[アドバンス]：[3D ホーム] タブー [3D 作成] カテゴリー [ロフト] プルダウン
- [導線] コマンド

ロフト(導線)コマンドは断面の始終点位置や作図方法を考慮しなくても正しくモデル化ができます。ただし、導線となるポリラインの各頂点位置に断面を配置することが条件となりますので、断面や導線となるポリラインについて基点表示コマンドで構成点を表示させることで作業が行いやすくなります。

1. 初めに並べた複数の断面形状の同一頂点に導線となるポリラインを作成します。
その際、導線となるポリラインの頂点はロフトする各断面の構成点を通っている必要があります。



2. いずれかの向きロフト(導線)コマンド実行後、導線ポリラインを指定し、各断面を選択します。

